ヨロンFun（ポケットサイズ）

発行日　2025年3月31日
限定100部／税込200円
買えるかもスポット：
シェアオフィス シマノマ、Muuru

発　行　元　NPO法人ヨロンSC
企　　画　ヨロンFun
構成・文・デザイン　シマイロデザイン

＜お問い合わせ＞
ヨロンFun実行委員会
住　　所　鹿児島県与論町古里出毛16-5
ホームページ　https://yoronfun.com/
Eメール　yoronfun@gmail.com
お問い合わせはEメールにてお願いいたします。

■写真はヨロンFunおよびフリーペーパーtaneに
掲載されているものより使用しました。

本企画は公益財団法人日本財団の助成によるものです。
この本は環境に配慮した紙素材を使用しています。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

Fun/Fan

1. 遊び・楽しみ・おもしろいこと・おもしろい人

2. うちわ・扇風機・風を送る・みんなを巻き込む

【ヨロンFun】ヨロン島が大好きな人のこと・

また、ヨロン島に暮らす地元のライターが

独自の視点で島の魅力を発信するWebメディアのこと

Feel the Yoron ocean, anytime

ローカル Web マガジンのはじまり。

公開までに準備期間がけっこうあったから、さかのぼれば5年くらい前。「ヨロン島でローカルWebマガジンを作る」と熱い思いを持った男が最初に声をかけたのは、移住者2人。地域おこし協力隊を卒業してデザイン事務所を始めたけれど仕事がなく細々と島のフリーペーパーを作っていた私 原田とダイビングの仕事をしながらサンゴ礁の保全活動をしていたかなちゃん。

ヨロンFunという名前は連想ゲームで決まったようなものだ。3人で言葉を出し合っている時にポンと出た。「ヨロン島のファンを増やす！」「ファンクラブの事務局的な」「それだ！」と満場一致で盛り上がった。FunとFanの両方いけると気付いた時にはさらに盛り上がった。ロゴマークのデザインは「u にもaにも見えるデザインを」とリクエストした。

どんなサイトに育って誰が読んでくれるのか、やってみないと分からないけれど、とりあえず3年は続けようと言われたような気がする（5年だったかもしれない）。そんな口約束がこんなにきちんと続くとは思わなかった。

ヨロンFunはこれからもコツコツ毎週更新を続けていく。たぶんね。

Friday, sometimes Wednesday

島んちゅライター。

海　ライター

所要時間 60 分〜 120 分

2021.10.31

☆

ヨロンFunの記事はすべて、この島に暮らす人が書いている。

島のことを自分の言葉で発信することで、島の人たちがヨロン島の魅力に改めて気付いてもらえたらいいなと思っているし、記事を読んだ人がライターさんを訪ねてくれたりしちゃったら面白いなと思っている。

これまでに20人を超える島人（しまんちゅ）がライターとなってくれた。

2024年には高校生ライターも誕生した。だいたいはこちらからお願いするのだけど、たまに「記事を書きたい」「取材してほしい」と言ってもらえる時もあって、そんな時はすごく嬉しい。

手探りで始まったローカルWebマガジンを色どり豊かにおもしろく育てることができたのは、記事を書いてくれているライターさんたちのおかげ。

そんなライターさんに、ボスは言う。

「無理なく、楽しく、持続可能で」

これはいつしか、ヨロンFunの合言葉になった。

ヨロンFunは無理強いしない。そっとあなたが書いてくれるのを待っている。

むりなく、たのしく。

ヨロンFun ライター

Reporter 箱山康子 /
本業でも校正者・ライターをしているプロ。
ヨロン Fun を支えるママさんライター。
会えるかもスポット：X（つっきー）

Reporter 菊凛太郎 /
歴史と文化の案内人。
会えるかもスポット：
与論民俗村、ときどき居酒屋

Reporter uminote (Tomo)/
オーシャンアート＆ジュエリーブランドを制作しているアーティスト。 作品は島内でも販売中。
会えるかもスポット：沖商店、 与論郵便局など

Reporter スズキミキ（事務局兼務）/
ヨロン Fun の応援団長（勝手に任命）。
ヨロン愛あふれる体験レポは必見！
会えるかもスポット：Muuru cafe（予定）

Reporter 益山アキラ @ 海岸通り /
ヨロン島のサーフィンはこの人に聞け！
ヨロン Fun のサーファーライター。
会えるかもスポット：海岸通り

Reporter 池田リョウスケ /
一般社団法人 E-Yoron 事務局長。
拾い箱の提案者で SUP ガイドをしてる人。
会えるかもスポット：海（皆田海岸とか）

Reporter 小高あすか /
音楽で繋がる人たちを発信してくれる唄者ライター。 デザイン事務所もされてます。
会えるかもスポット：Yoron-emA

Reporter 池田かな（編集部兼務）/
NPO 法人海の再生ネットワークよろん事務局長。
海とサンゴを愛する研究者。
会えるかもスポット：シェアオフィス シマノマ

Reporter 沖隆寿 /
カスタネット商店店主で与論島劇団野生の島人団長でヨロンアイランドビーフ事業所もしてる人。
会えるかもスポット：カスタネット商店

Reporter 市村早苗 /
移住して約1年。新鮮な視点でヨロンの種記事やインタビューなど難しい記事にチャレンジしてくれてるフレッシュライター。同じくライターの市村昇平さん（事務局兼務）とはご夫婦です。
会えるかもスポット：島のどこかで

Reporter 高校生ライター 池田こころ、 岡本一莉、 池田桧夏、 池田おと /
ヨロン Fun をさらにおもしろくしてくれる高校生ライター。 学業の合間に島の魅力を自分の言葉で発信してくれています。 会えるかもスポット：与論高校 ＊高校生ライター 随時募集中！＊

海と生きる。

ひかえめに言っても、ヨロン島の海は最高だ。

晴れた日は特に、飛び込みたくなるほど最高だ。

心がささくれ立ったり、なんか不安に押しつぶされそうな時はヨロン島の海を見に来て欲しい。この海を見ていたら争いごとなんか起こらないんじゃないかとまで思う。（現実はそう簡単じゃないとしても）

ヨロン島で暮らす私たちは海と共に生きている。

おおげさではなくて、いつも自分のすぐそばに海を感じているし、それはこの島に暮らしていくかぎり、変わらない。

ヨロンFunに集う私たちは人と海、自然との関わりを大切に考えている。

この環境を守るためにはどうすればいいのかという気持ちが根底にある。

この海を美しいままの姿で次の世代に紡ぎたい。

何度も言うけど、やっぱり、ヨロン島の海は最高なのだから。

ヨロン島で育つ 子どもと、

ヨロンFunを続けていった先に何があるかな？って考えると、この島で育つ子どもたちの笑顔が浮かぶ。

ヨロン島では海洋教育とかシチズンサイエンスとか、子どもたちがいろんな大人と関わり合いながら、島の課題について学んだり、調べたり、解決のために行動できる機会がたくさんある。

言うまでもなく都会と違って離島にはないものが多い。でも島にいるから体験できることもある。

都会の価値観をただ追い求めるのではなく、子どもたちにはこの島で育つ幸せを感じてほしいと願っているし、小さなWebメディアにもそれを後押しする力があるんじゃないかって思ってる。

ヨロン Fun のこれから。

ヨロンFunを続けていて感じるのは「ヨロン島に関わる人、一人ひとりが必要な存在」ということ。関わる人っていうのは、住んでる人だけじゃなくヨロン島で育った人、住んだことがある人、ヨロン島に一度でも来たことがある人、来たことがないけどヨロン島のことを気にしてくれている人、ヨロンFunを読んでくれている人、ヨロン島と多様につながる人たちみんな。

島とつながる人が増えれば増えるほど、島はおもしろくなると思う。

ヨロン島では「私がいてもいなくても変わらない」っていうセリフが笑っちゃうほど似合わない。なにしろ人が少ないからね。影響の大きさに違いはあるものの、あなたの存在は島のなにかに確実に変化を与えているはず。

だから、つながる人次第でヨロン島は変わる。

それが良い方向へ続くように、と思いながらこれからもヨロンFunは記事を書く。そんなことの繰り返しが子どもたちの笑顔に繋がると信じてる。

Warabinchya's "Yoron Journal" is now on sale at the Store,
and will make you smile and cheer you up just by looking at it.

クスっと笑えて見るだけで元気が出てくる、
わらびんちゃーの「ヨロンジャーナル」
Store で販売中

https://yoronfun.thebase.in/

ヨロン島の海をポケットに入れて

いつでもそばに

You will love the ocean.